

東京学芸大と足立区 貧困の子ども支援へ

貧困に苦しむ児童生徒を
学校で支援する方法を研究
するため、東京学芸大と小
金井市）は、足立区と協定
を結ぶ。足立区は都内の自
治体で最も生活保護受給世
帯が多く、貧困対策に積極

的に取り組んでいる。同大
は区の協力を得て、中小学
校各1校で、学生が放課後
の補習授業や学童保育の指
導を手伝い、具体策を研究
する。

7日に協定を締結する。
協定に基づき、学生が、希
望する児童生徒に対し、自
宅まで送り届けたり、在宅
時にテレビ電話で会話をた
りすることなども試み、家
庭へのアプローチ方法も検
討していく。

区立学校の教員を対象
に、経済的に困窮している
家庭にどのように対応して

いるかなどを尋ねるアンケ
イトも実施する予定だ。

研究を指導する松田恵示
教授（社会学）は、「貧困
を抱える家庭に、教育現場
がどのように支援できるか
を検討していきたい」と話
している。

足立区教育委員会の森太
一・学力定着推進担当課長
は「貧困の連鎖を断ち切る
ためには、基礎学力の定着
が不可欠。今回の連携が、
貧困を抱えている地域にあ
る学校の基礎学力向上につ
ながればと期待している」
と語った。